

【目指す姿】

一人ひとりの安全意識の向上と地域のつながりの一層の強化

基本施策・施策区分体系図

5-01 安全・安心な地域づくり

5-01-01 防災

5-02-02 町内会

5-01-03 コミュニティセンター

5-01-04 共助による減災

5-02 安全・安心な暮らし

5-02-01 市民相談

5-02-02 防犯

5-02-03 除雪

5-02-04 火災・救急救命

5-02-05 交通安全

5-03 安全・安心な都市機能

5-03-01 道路・橋りょう

5-03-02 河川・ダム

5-03-03 防災活動拠点・行政機能

5-01 安全・安心な地域づくり

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ●思いやりとぬくもりの地域コミュニティを再生すること ●市民活動、市民参加、ボランティア活動が活発になること ●自然災害から市民の生命・財産を守るまちにすること
------------	--

5-01-01 防 災

5年後の目指す姿

- 防災に関する各種計画の改定と避難所運営や行政備蓄計画策定など総合的な対策が強化されます。

現 状 と 課 題

- 留萌市地域防災計画については、災害関係法令等の改正などから全般的な見直しが必要です。また、各種の防災関係計画についても策定や見直しが必要です。
- 公共施設の見直しに伴って、避難所の指定に今後、変更が生じます。
- 防災拠点となる市役所庁舎は整備計画が策定されておらず、事業費、建設位置などが決定されていません。

前 期 の 方 向 性

- 留萌市地域防災計画及び防災関係各計画を改正します。
- 全国的に河川災害・浸水災害が発生しており、留萌川沿線の浸水予想地域の見直し等を行い、ハザードマップ等を改正していきます。
- 災害情報等の伝達方法・手段はデジタル化や通信ツールの活用を含め、検討を進めていきます。
- 公共施設の見直し等により指定する避難所の変更が予想されるため、指定する避難所を検討し、併せて初期対応に必要な災害備蓄品などを計画的に配備・更新していきます。
- 津波災害を想定した防災訓練や複合型の災害、大雪などに対応した防災訓練、留萌川流域における浸水避難訓練等を実施し、市民の防災知識と避難行動の習得を図っていきます。
- 災害時に防災活動の拠点となる市役所庁舎の整備計画について、庁舎改築の基本方針等を策定していきます。

数 値 目 標

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
なし						

5-01-02 町 内 会

5年後の目指す姿

- 地域コミュニティが自治の担い手として機能し、互いに協力しあいながら、地域の課題を地域力で解決しています。

現 状 と 課 題

- 町内会役員の高齢化やなり手が不足しています。
- 町内会加入率がなかなか向上せず、特にアパート等での未加入が見受けられます。

5-01 安全・安心な地域づくり

前期の方向性

- 町内会と行政が役割を明確にして、協働のもと町内会が自主性・主体性を持った地域活動が推進されるような環境づくりに努めていきます。
- 住民組織において設置し、維持管理する街路灯または防犯灯の電灯料金や自主防災組織の設置に対して、住民組織助成金による支援を継続することで、防犯・防災環境の維持・向上に努めていきます。
- 町内会加入率が向上し、組織基盤が安定できるよう、町内会と行政が連携し、町内会の必要性や役割について理解してもらえよう努めていきます。
- 町内会が抱えている問題や課題に、町内会と一体となって、その解決に向け、迅速に対応していきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
町内会加入率 (%)	78.5	79.1	79.3	79.5	79.8	80.0

5-01-03 コミュニティセンター

5年後の目指す姿

- 地域住民の拠点施設として、コミュニティ活動や世代間交流も活発になっています。

現状と課題

- 施設の利用率が伸び悩んでいます。
- 施設の老朽化が進んでおり、計画的な改修等が必要となっています。

前期の方向性

- 利用率の向上等により収入が確保され、コミュニティセンターの運営が安定するよう、施設の利用形態に応じた運営の検討を進めていきます。
- 各運営協議会との連携を密にし、災害発生時の避難所としての機能を含めた施設のニーズ・維持修繕等に対し、必要に応じて整備していきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
市民一人当たりのコミュニティセンター年間延利用回数 (回)	1.14	1.18	1.19	1.21	1.23	1.24

5-01-04 共助による減災

5年後の目指す姿

- 地域による防災の意識が向上しています。
- 地域における自主防災組織の設置が増え、防災訓練の実施や参加などにより、相互の助け合い精神が浸透しています。

5-01 安全・安心な地域づくり

現 状 と 課 題

- 高齢化等によって町内会活動が停滞しているが、「自主防災組織」の設置に向け、町内会での理解が深まるよう積極的な周知等が必要です。
- 災害情報等の伝達方法は、現在の方法を含め、地域のコミュニティと伝達を密にするため防災連絡員の配置を進める必要があります。
- 「自主防災組織」の設置増加に合わせて、市民防災訓練を地域単位の自主的な訓練として継続実施できるようにする必要があります。
- 避難行動要支援者名簿の作成と防災関係者への名簿提供により、日頃からの共助と支援に備えるとともに、対象者と町内会の理解と協力を得ながら個別行動計画の策定をさらに進める必要があります。
- 地域共助には「町内会」という単位によるもののほか、企業や団体などの協力による共助も必要となります。
- 災害時において、介護が必要となる方が安心して避難できる「福祉避難所」の設置を進めるとともに、災害時における物資の支援や応急対策活動などについて、新たな掘り起しも必要です。

前 期 の 方 向 性

- 「自主防災組織」の設置増加に向け、積極的に周知等を進め、育成を図っていきます。
- 地域における自主的な防災訓練を、今後も側面から支援・協力していきます。
- 避難行動要支援者名簿の作成及び更新、防災関係者への名簿提供を継続していきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
町内会における自主防災組織数 (団体)	50	60	70	80	90	100
自主的に防災訓練を実施した団体数 (団体)	18	23	30	40	50	60
避難行動要支援者名簿の同意した人の割合 (%)	38.9	45.0	50.0	55.0	60.0	65.0

5-02 安全・安心な暮らし

視 点

- 市民が、安心(快適)で安全な生活環境で暮らせるまちにすること
- 市民の生命・財産を守るため災害に強い地域づくりをすること

5-02-01 市民相談

5年後の目指す姿

- 誰でも、どんな問題でも安心して気軽に相談できる窓口が提供され、増加が進む高齢者に対しても相談しやすい環境になっています。
- 消費者教育が充実し、トラブルが未然に防止され、消費生活の安心感も高まっています。

現 状 と 課 題

- 市民相談の分野では、平成28年度から無料法律相談の開催(月1回)及び市民相談委員の対応(随時)となっています。
- 複雑化、超高齢社会を反映して市民生活における法的需要が増加しています。
- 消費者相談窓口を委託している消費者協会の相談員の高齢化等により、持続可能な相談窓口の確立と機能の強化が課題となっています。

前 期 の 方 向 性

- 無料法律相談の弁護士を派遣する旭川弁護士会との連携を密にし、市民の不安、トラブルの迅速な解消のため、相談体制を維持していきます。
- 消費者教育が充実し、トラブルが未然に防止され、安全・安心な消費生活を目指します。
- 国(消費者庁)の動向を見守りながら、さらに効率的な事業手法に見直していきます。
- 持続可能な消費者相談体制を見据え、消費者協会等と連携を図りながら窓口機能の強化及び相談体制の充実を図っていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現 状	H29	H30	H31	H32	H33
消費者協会相談件数 (件)	128	128	128	125	125	120

5-02-02 防 犯

5年後の目指す姿

- 安全で安心な暮らしを送ることは、自治の基本であり、地域が一丸となった防犯活動を行うことで、市民が「安全で安心なまち」を実感しています。
- 夜間における通行の安全と犯罪の防止につながる防犯灯が町内会等により維持管理されています。

現 状 と 課 題

- 留萌市防犯協会会員を主とし、警察署や会員事業所、町内会などの地域と協力した防犯活動を実践しています。
- 市内で発生した児童を狙った声かけ事案、全国的にも増加傾向にある高齢者を狙った特殊詐欺の防止について、さらに防犯対策事業を進める必要があります。
- 町内会が管理する防犯灯は、大半がLED灯具となりCO2削減と経費の節減になっています。

5-02 安全・安心な暮らし

前期の方向性

- 暴力追放・防犯都市宣言に基づき、犯罪の抑止力になるような環境づくりに努めるとともに、警察署、地域安全活動推進委員、協会会員等と連携し、各種防犯活動を支援・実践していきます。
- 継続的な活動により、さらに犯罪抑止効果の高い事業実施に向けて努めていきます。
- 町内会に対する防犯灯の新設や交換に要する費用の補助制度を継続し、維持管理を支援していきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
刑法犯発生件数 (件)	105	100	95	90	85	80

5-02-03 除雪

5年後の目指す姿

- 局所的な大雪に対応するため、道路管理者の連携体制が構築され幹線道路の通行が確保されています。

現状と課題

- 除排雪業務を担う事業者数が減少する傾向にあります。
- 除排雪業務に携わる従事者は、一部では若年層も確保されているものの全体的には高齢化が進んでいます。

前期の方向性

- 除雪機械については、計画的な更新を行い、現行除雪体制を確保していきます。
- 市民雪捨て場の2か所を確保し継続していきます。
- 道路管理者による「除排雪連携協議会」を機動的に活用し、主要幹線道路(緊急輸送道路・バス路線)等、優先的の確保に努めていきます。

数値目標

※現状：H27

指標項目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
市民雪捨て場利用台数 (千台)	37	37	37	37	37	37
大雪による通行止め日数 (日)	0	0	0	0	0	0

5-02-04 火災・救急救命

5年後の目指す姿

- 応急手当の普及は、傷病者の救命率向上につながり、消防機関の救急業務の効果も高まっています。
- 大規模災害時における住民の自主救護能力が向上しています。

5-02 安全・安心な暮らし

現 状 と 課 題

- 市民を対象とする普通救命講習は3時間と長めなため受講しにくいという人が多く、一般講習(1時間)と救命入門コース(1時間30分)の依頼が多くなっています。

前 期 の 方 向 性

- 市民もAEDの使用が認められており、今後も広く住民への周知を継続し、消防と住民が連携した救命体制の構築を推進していきます。
- AEDを24時間利用できる事業所等へ協力を求め、救命講習等を通じて市民へAED設置施設の情報を提供していきます。
- 災害のない安全・安心なまちづくりを目指し、複雑多様化する各種災害に対応するため、消防施設の充実強化を図り災害対応力の向上に努めていきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
普通救命講習受講率 (%)	20	40	42	44	46	48

5-02-05 交通安全

5 年 後 の 目 指 す 姿

- 家庭・企業や事業所・地域での交通安全に対する意識が高まり、市民が当事者になる交通事故は減少しています。

現 状 と 課 題

- 超高齢社会を迎え、高齢者が加害者・被害者になる割合が上昇しているため、高齢者を対象とした新たな運動が必要になってきています。
- 飲酒や酒気帯び運転根絶に向けた活動や運動のさらなる強化が必要になってきています。
- 自転車利用者の危険運転を減らすため、家庭や学校でのより一層の交通安全教育が必要となっています。

前 期 の 方 向 性

- 交通事故による加害者・被害者をなくすため、各関係機関との連携により、交通安全教室など、各種啓発活動を進め、交通事故の減少に努めていきます。
- 特に飲酒・酒気帯び運転の根絶運動を積極的に実施していきます。
- 引き続き交通死亡事故撲滅に向け、警察署や各関係機関と連携を強化し、市民の交通安全意識の向上につながるよう交通安全運動を積極的に実施していきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
交通事故発生件数 (件)	12	10	10	10	10	10
交通事故死者数 (人)	0	0	0	0	0	0

5-03 安全・安心な都市機能

視 点	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の生命・財産を守るため、インフラの老朽化対策、事前防災・減災を推進し、安全・安心な道路ネットワークを形成すること ●市民の生命・財産を洪水から守るための河川・ダムが整備・管理され、市民が安心して暮らせるまちにすること ●災害時における市の防災活動及び行政機能拠点を維持・向上させること
------------	---

5-03-01 道路・橋りょう

5年後の目指す姿

- 幹線道路のネットワークの整備が進み、都市機能が向上しています。
- 既存橋りょうの長寿命化及び道路付属物等の老朽化による利用者被害を防止するため、点検診断に基づく補修・改修整備を進めています。

現 状 と 課 題

- 高規格幹線道路は大和田 IC～留萌 IC間の早期完成が期待されています。
- 幹線道路は道道留萌小平線、見晴通(道道浜中元川線)の早期完成が期待されています。
- 今後急速に増大する老朽化橋りょうを計画的・効率的に保全し、可能な限りコスト縮減するために橋梁長寿命化修繕計画に基づき、定期点検による橋りょう状態の把握、予防保全型の維持修繕を行う必要があります。
- 道路照明等道路付属物の老朽化による利用者被害を防止する観点から、点検診断に基づく補修・更新整備を行う必要があります。

前 期 の 方 向 性

- 幹線道路の整備促進要望を、それぞれ国及び北海道に要望していきます。
- 橋梁長寿命化修繕計画に基づき、計画的に補修・改修整備を推進していきます。
- 道路ストック点検結果に基づき、道路照明を計画的に補修・更新整備を推進していきます。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
橋りょうの予防保全率の向上 (%)	4	4	17	21	29	33
道路照明の健全度の向上 (%)	0	37	67	100	100	100

5-03-02 河川・ダム

5年後の目指す姿

- 市民の生命・財産を洪水から守るための河川・ダムが整備・管理され、市民が安心して暮らしています。

5-03 安全・安心な都市機能

現 状 と 課 題

- 留萌ダムや大和田遊水地が完成し大雨による洪水調整に大きく寄与しています。
- 留萌川河口部の改修を引き続き行っています。
- 普通河川の自然河道区間では、流路部の自然植生により出水時流下能力が不足している区間があります。

前 期 の 方 向 性

- 留萌川の整備促進の要望を国に行っています。
- 高砂・東雲排水機場の適切な稼働を行っています。
- 堤内及び周辺の土地利用状況を踏まえた河道維持を行っています。

数 値 目 標

※現状：H27

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
大雨時における溢水件数 (件)	0	0	0	0	0	0

5-03-03 防災活動拠点・行政機能

5 年後の目指す姿

- 行政機能のみならず、災害時における拠点でもある市庁舎の建替えまたは移転など今後の方向性が確認され、それに向けた準備を進めています。

現 状 と 課 題

- 本庁舎は、建築後 53 年の経過で躯体、外壁等に相当の老朽化が進んでおり、庁舎の耐震診断は実施していないが、同等の結果となる耐力度調査においては、「耐震性に疑問あり」との結果が出ています。
- 分庁舎についても、建築後 18 年を経過し、特に屋根・外壁の損傷が激しくなっています。
- 車庫を含めた庁舎は、毎年度、最低限の修繕で対応してきているが、庁舎維持、管理経費については、最小限にとどめている状況です。
- 継続的な行政機能の中核を担うほか、災害時の拠点としての役割を持つ市庁舎の整備計画は策定されていません。
- 平成 28 年 4 月の熊本地震において、自治体庁舎の耐震化が問題となっています。

前 期 の 方 向 性

- 継続的な行政機能の中心及び防災活動の拠点となる市役所庁舎の今後の在り方に関し(他の公共施設とのバランスを考慮しながら)、移転、改築、新築、建設位置、事業費など、協議・検討を進め、庁舎改築の基本方針等を策定していきます。

数 値 目 標

指 標 項 目	現状	H29	H30	H31	H32	H33
なし						

